

- 主体的・対話的な視点からの授業改善
- SWPBS の導入による学習指導の充実

校長



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についたり、与えられた課題にまじめに取り組めたりできている。 ●学力の個人差が大きく、学力が定着するのに時間がかかる児童がいる。語彙が少なく、問題の内容を読み取ったり、自分の考えをまとめて文章に書いたりする力が弱い。	・学習の過程を通して習得した、基礎的基本的な知識が既習の知識と関連していることに気づき、他の学習の場面で活用しようとする。 ・問題から要旨や問いの意図を読み取ることができる。	・何が書かれているかを捉えさせるために、教科書にアンダーラインを入れさせたり発問を工夫したりする。 ・日記指導において既習の学習内容を活用させる。 ・ドリル学習やミニテスト、補充プリントを週1回以上取り組み、継続的に記録する。		・日記指導においてテーマを決め、自分の考えや理由を書かせる。	

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習の仕方が分かり見通しがつくと、自分の考えをもって進んで取り組むことができる。 ●自分の考えを筋道を立てて話したり、文章に表現したりすることに課題がある。	・自分の考えをもって書いたり話し合ったりして課題の解決に取り組むことができる。 ・友達の意見をしっかりと聞いて、自分の考えを伝えることができる。	・SWPBS と関連づけ、聞く力や話す力を高める。 ・グループ学習等でホワイトボードを活用し、意見をまとめられるようにする。  ・グループ学習等の進め方やヒントカード等を提示し、自分の考えがまとめられるよう支援する。		・グループ学習等でホワイトボードを活用し、意見をまとめられるようにする。(3～6年) ・ペア学習等で意見や感想を伝え合うようにする。(1・2年)	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業や家庭学習に一生懸命取り組むことができる。 ●自らが課題を設定して、自主的に学習したり読書をしたりする習慣が定着していない。	・自分のめあてをもち、進んで学習し、学びを深めることができる。 ・自分の学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるように取り組むことができる。	・授業ではめあてを提示し、振り返りの時間を確保する。 ・家庭学習充実期間を設け、家庭と学校でのチェック機能を充実させる。 ・タブレットを活用し、自分の課題に合った学習に取り組めるようにする。		・タブレットを活用し、自分の課題や調べたいテーマに合った学習に取り組めるようにする。	

令和3年度 学力向上ロードマップ

